

第7章

目標指標の設定及び進行管理

- 1 目標指標の設定
- 2 計画の進行管理

第7章 目標指標の設定及び進行管理

1 目標指標の設定

立地の適正化に関する都市づくりの方針、誘導施策を踏まえ、以下のように目標指標を設定します。さらに計画策定から5年度の2026年（令和8年）を中間の見直し時点として中間目標値を設けます。

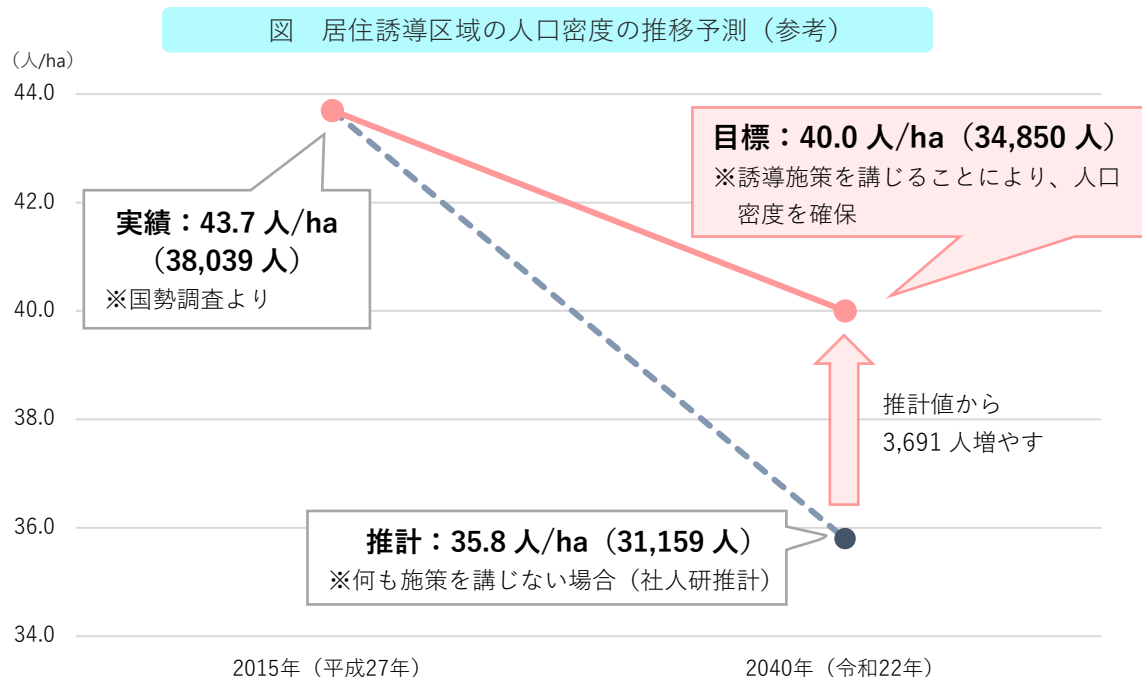
(1) 定量的な目標値

ア 居住誘導に係る目標値

- 居住誘導により、生活利便性やコミュニティの維持・充実を図り良好な居住環境を形成することに係る定量的な指標として「人口密度」を設定します。
- 居住誘導区域の人口密度の目標値を、基準値を踏まえ、都市計画法施行規則に定める既成市街地の人口密度の基準である40.0人/haと設定します。

指標	基準値 2015年（平成27年）	中間目標値 2026年（令和8年）	目標値 2040年（令和22年）
居住誘導区域の 人口密度*	43.7（人/ha）	42.1（人/ha）	40.0（人/ha）

※人口メッシュもしくは町丁目人口の積み上げによる算出により数値管理



イ 都市機能誘導に係る目標値

- 都市機能誘導により、中心拠点・地域拠点に医療・福祉・商業・子育て支援などの生活サービス施設の維持・充実に図られることに係る定量的な指標として「誘導施設の充足度」を設定します。
- 中心拠点及び地域拠点の各都市機能誘導区域で設定した誘導施設の充足度（都市機能誘導区域に立地している誘導施設のカウントによる数値管理）の目標値を、基準値を踏まえ以下のように設定します。

指 標		基準値 2020年（令和2年）	中間目標値 2026年（令和8年）	目標値 2040年（令和22年）
誘導施設の 充足度*	中心拠点	73.3（%） 11/15	80.0（%） 12/15	86.7（%） 13/15
	地域拠点	66.7（%） 20/30	73.3（%） 22/30	80.0（%） 24/30

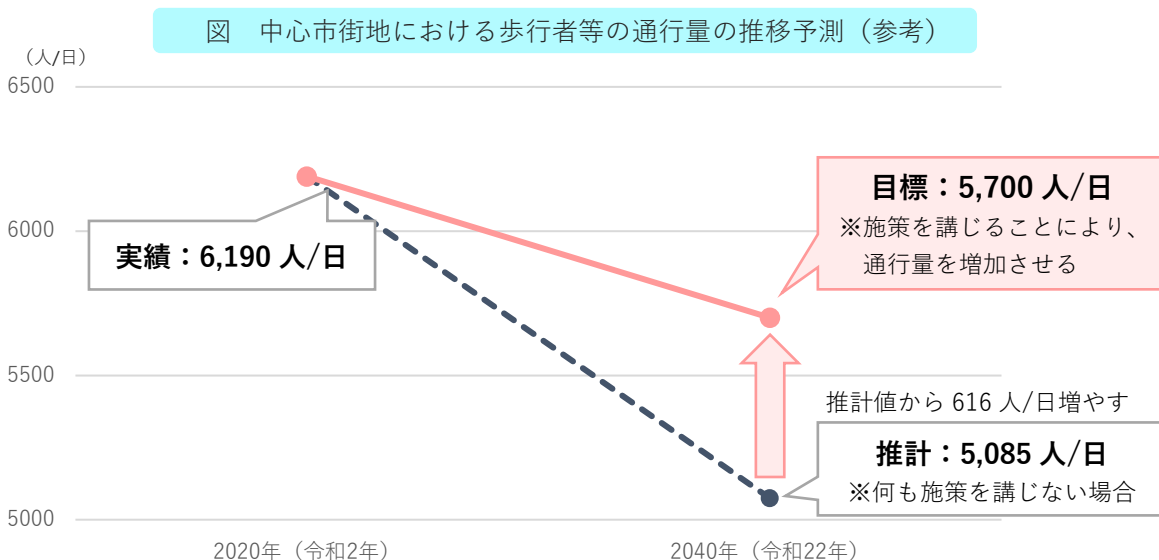
※各都市機能誘導区域で指定されている誘導施設のうち立地している施設の数÷各都市機能誘導区域で指定されている誘導施設の数（但し、異なる都市機能誘導区域の誘導施設は別としてカウントする）

ウ ネットワークに係る目標値

- 歩いて楽しい都市づくりに係る定量的な指標として「中心市街地における歩行者等の通行量※」を設定します。
- 人口減少下においても基準値と同等以上の通行量を目指し以下のように設定します。

指 標	基準値 2020年（令和2年）	中間目標値 2026年（令和8年）	目標値 2040年（令和22年）
中心市街地における 歩行者等の通行量*	6,190（人／日）	6,043（人／日）	5,700（人／日）

※中心市街地の5地点（本通二丁目交差点、駅前通り交差点、JR島田駅自由通路南側、おび通り交差点、本通五丁目）における、1日あたりの歩行者と自転車を合わせた通行量



(2) 期待される定性的な目標値

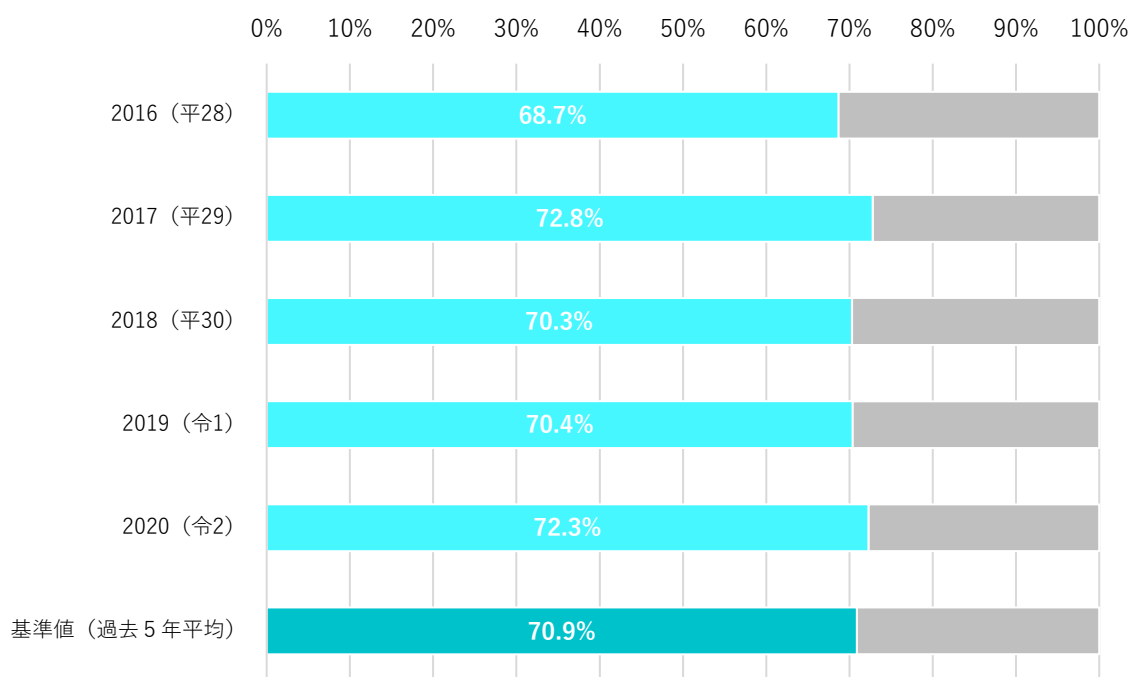
ア 定住意向の割合

- 居住誘導による人口密度の維持、都市機能誘導による誘導施設の充足、公共交通のネットワークの形成により、立地の適正化に関する都市づくりの方針である「誰もが多様な暮らしを楽しめるまちづくり」が進み、市民の「島田市への定住意向」が高まることを効果とします。
- 島田市総合計画市民意識調査時に実施する「島田市に住み続けたい意向」における割合を期待される効果に設定します。

指 標	基準値	中間目標値	目標値
	2016年(平成28年)～ 2020年(令和2年)の平均値	2021年(令和3年)～ 2026年(令和8年)の平均値	2036年(令和17年)～ 2040年(令和22年)の平均値
定住意向の割合※	70.9 (%)	70.9 (%)	基準値を上回る

※島田市総合計画市民意識調査より「旧市・大津」「六合」「初倉」「金谷」の地域から得た回答で「今の場所に住み続けたい」と回答した人の割合

図 島田市総合計画市民意識調査における「今の場所に住み続けたい」と回答した割合の経年比較（参考）



出典：島田市総合計画市民意識調査の結果を基に作成

2 計画の進行管理

本計画の進行管理は、PDCA サイクル[※]に基づいて行います。

都市を取り巻く社会的動向や島田市総合計画などの上位関連計画の改定状況を踏まえつつ、概ね5年ごとに前項で設定した目標値の達成状況の評価や、本計画の進捗状況や妥当性などの精査・検証を行います。また、これらの精査・検証結果を踏まえ、必要に応じて適宜計画を見直します。

以上の進行管理を、立地適正化計画の策定時に庁内協議の場を担った「島田市都市計画マスタープラン等策定幹事会・策定委員会」を今後も継続的に開催するなどにより行います。

※PDCA サイクルとは、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）を繰り返すことにより、生産管理や品質管理などの管理業務を継続的に改善していく手法のことです。

図 PDCA サイクル

